

平成30年度湘南地区意見交換会概要

開催日時 平成30年9月22日(土) 午後1時30分～3時50分
開催場所 コミュニティセンター湘南 大会議室
出席者数 地区内住民：76名 行政職員：19名

1. 後藤会長あいさつ



私ども湘南地区まちぢから協議会では、地域の課題はできるだけスピーディに解決していこうと考えています。各自治会での問題は、自治会長から行政に調整をし、早く解決していこうと話しております。それでも解決が難しい場合には、まちぢから協議会の定例会で議題に挙げ、そこに担当課も来ていただいて話を聞くという形をとっております。

本来ならば、この意見交換会も開催せずに済むかもしれないとも思うのですが、市長の顔や、副市長の顔を、地域の皆さんに見ていただくのも大事なことかと思い、開催の運びとなりました。

2. 服部市長あいさつ



年に1回の意見交換会で、地域の皆様が日頃感じられていることや問題意識を出して頂き、行政としてこれからどういった視点を持たなければいけないのかを考える、私たちにとっても非常に大事な会でございます。昨年までいただいた内容も、既に解決できていることと、まだ道半ばのことがあろうかと思えます。

どうか本日の意見交換の中で、それらを深め、よりいい方向を目指したいと思っております

※あいさつとともに、資料に沿って「将来に向けた大切な取り組み開始の年」について説明がなされた。

3. 第一部：テーマ別意見交換

(1) 茅ヶ崎市南西部の拠点の位置づけについて

【市からの説明】

先ほど市長からも説明がございましたが、平成23年に策定いたしました「茅ヶ崎市総合計画基本構想」、また、平成20年に策定いたしました「ちがさき都市マスタープラン」では、将来都市構造の中で市内に幾つかの地区を拠点として位置づけてございます。市内の南西部に位置します湘南地区内では、浜見平地区が生活・防災の機能を持つ拠点及び景観拠点として位置づけられておりまして、また、柳島スポーツ公園が整備され、道の駅を整備予定の柳島向河原地区がふれあいを育む交流拠点として、柳島キャンプ場、柳島しおさい公園のある柳島海岸周辺もふれあいを育む交流拠点として位置づけているところでございます。本日は、その中でも現在整備が進捗してございます浜見平地区、また、道の駅と本年3月に開園いたしました柳島スポーツ公園についての取り組みについて順次ご説明させていただきます。

① 浜見平地区について

平成8年、UR都市機構により浜見平団地の建替計画が市に示されました。地域特性を踏まえたコンパクトで持続可能な地域社会・地域活動の実現を目指すとともに、市南西部の生活・防災拠点として整備を行うため、まちづくりの全体的な指針となる「浜見平まちづくり計画」を平成20年1月に策定し、事業主であるUR都市機構や地元住民の方々との合意形成のもと、より具体的な整備内容を定めるため平成22年10月に「浜見平地区まちづくり整備実施計画」を策定しております。

前方の映像をご覧ください。「浜見平まちづくり計画」で中央部に位置づけられております生活拠点ゾーンにハマミーナが平成27年4月にオープンし、平成29年3月には第2期ランチ茅ヶ崎2がオープンしております。

さらに、平成32年3月ごろには、既に供用が開始されております2つの商業施設を遊歩道でつながる第2期商業施設、茅ヶ崎2に新たな商業施設が誕生する予定となっております。また、現在、一部が供用され、将来的には約1.4ヘクタールとなるしろやま公園は、地域のスポーツやレクリエーションに対応し、災害時には避難場所としての機能も有しております。

次に、市道に関しましては、整備実施計画を踏まえ、市道0121号線（鉄砲道）及び市道0202号線（左富士通り）の電線地中化を行い良好な景観を形成するとともに、災害時の安全性や維持管理の向上に対応しております。本年度につきましては、浜見平交番前交差点の右折レーンの設置を行う交差点改良工事及び松尾川の上部の遊歩道化の工事を行ってまいります。

② 道の駅について

28年3月に策定いたしました「茅ヶ崎市道の駅基本計画」に基づき事業を進めているところでございます。本事業は、国道134号の道路管理者である神奈川県とともに、一体型の道の駅として整備を進めております。施設整備のみならず、オリジナルブランドの検討もあわせて現在も進めているところでございます。

また、市道に関しましては、映像にもございます市道0121号線（鉄砲道）の柳島スポーツ公園側の歩道の工事も今年6月に完了いたしました。なお、南側歩道につきましては

は、道の駅とあわせて整備を実施してまいります。

③ 柳島スポーツ公園について

柳島スポーツ公園につきましては、民間の資金やノウハウを活用するPFI事業を本市として初めて採用して事業を進めております。3月25日の開園から半年あまりが経過し、本市の新しいスポーツ施設として定着しつつあるところでございます。開園までの間には、地元の皆様には機会あるごとにご理解とご協力をいただきましたこと、改めてここで感謝申し上げます。ありがとうございます。

施設の利用時間や特長につきましては、スクリーンをご覧ください。スポーツをされる方だけではなく、園路の散策や、施設内にある自由提案施設であるレストランやスタジオ等をご利用いただくなど、地元の皆様が気軽にお越しいただけるよう、これからも事業者とともに工夫をしてまいりたいと思います。

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○スポーツ公園ですが、大変素晴らしいものが出来上がり、結構だと思います。しかし、これに関連して、従来の相模川左岸河畔にあるスポーツ公園を国に早急に返還し、相模川左岸の堤防工事等を実施すべきだと思います。なぜ国に返還せず、条例で有料化にしているのでしょうか。先日の左岸の堤防工事で土のうの積み替えを行ったようです。これは大変ありがたいですが、スポーツ公園の返還やゴルフ場の整理をしない限り、左岸の堤防改築の予定が立ちません。私の仄聞するところによれば、予定が立っていないのは、全国でこの相模川だけだそうです。ゴルフ場の側道などで、ゴルフ場と市の間にいさかいがあり、うまくいかないとの話も耳にします。

●築堤の関係につきましては、国との調整を行っているところです。また、現在、河畔スポーツ公園は使用していただいている状態でございますが、31年度の総合計画の第4次実施計画では、撤去する旨の工事費も計上しております。国の進捗に合わせて返還をしていくよう、築堤の工事に妨げのない形で進めてまいります。

○なぜ返還しないのですか。

●返還につきましては、国の工事をいつ実施するのかを含め、調整しています。申し上げましたとおり、工事に差し障りなく返還できるよう調整しているところでございます。

(2) 湘南地区の交通問題について

【市からの説明】

① 中島地区の交通空白地区への対応について

湘南地区、特に交通空白地区の中島地区の公共交通につきましては、平成27年の1月から湘南地区まちぢから協議会の皆様と勉強会を開催し、アンケートの実施や、路線バスの延伸に向けた取り組みを進めてまいりました。平成28年4月には、路線バス延伸のための折り返し場の設置に向けた取り組みを進めていくことの合意ができ、これまで関係地権者等と交渉を進めてまいりました。

しかしながら、残念なことに関係地権者等といまだに合意ができておりません。現在に至るまで路線バスの延伸ができていない状況でございます。現在、新たな折り返し場の候補地を探すとともに、様々な課題はありますが、折り返し場を必要としない路線の延伸に

ついて、協議、検討を行っているところです。今後も、路線バスを優先に検討しつつも、他の交通手段もあわせて検討したいと考えてございます。

最近、日本全国を見ますと、その地域ごとに異なる移動のニーズに適した交通モードを構築している例がございます。法制度も変わり、比較的自由に公共交通を構築することができるようになってまいりました。市としましても、地域の皆様と情報を共有し、検討を深めていきたいと考えてございます。

なお、一部の地域の方から、柳島スポーツ公園のシャトルバスの運行が開始されたことで、本地区の交通について今後検討がされなくなるのではないかとのご心配の声もお聞きしますが、そのようなことはなく、今後もこの地区に適した交通体系が構築できるよう、地域の皆様と取り組んでまいりたいと考えてございます。

②中学生の部活動移動時の自転車移動について

現在、茅ヶ崎市民にとって、自転車は手軽な交通手段として生活の中で欠くことのできないものとなっております。また、地理的な条件や利便性の高さなどから、自転車は小・中学生にとっても有効な交通手段となっていることは、教育委員会としても認識をしております。

しかしながら、道路交通法施行規則の一部改正により、自転車は原則車道を走行しなければならないようになったこと、集団での移動は、1人で使用する際に比べて交通事故に遭うリスクが高いこと、実際に平成25年度から29年度までの5年間の本市における小・中学生が関わる自転車の交通事故が、平均すると年間15件以上発生していることなどから、使用方法によっては危険を伴う乗り物であるという認識もございます。これらのことから、これまでも教育委員会及び中学校長会において、使用の是非について繰り返し議論がなされてきたところでございます。

過去には、部活動における自転車使用時の交通事故により、被害者となるだけでなく、加害者となった事例もあることから、中学校長会において、小グループでの移動、出発前に具体的な危険箇所を注意喚起する事前指導、日常的な交通ルール・マナーの励行、自転車保険への加入の働きかけなど、交通事故の未然防止等に向けたさまざまな手立てを検討してきた経緯がございます。

今年の夏は異常気象とも言われるほど、例年に比べ猛暑の日々が長く続いており、熱中症への心配もございます。そのため、教育委員会では、各小・中学校に対して、熱中症予防のための指導のポイント等を示した神奈川県教育委員会作成の「熱中症事故等の予防について」を配布し、各校において適切な措置を講ずるよう働きかけております。また、部活動における自転車使用を原則自粛する中で、熱中症が心配されるような事態にならないよう、適切な公共交通機関の利用や、子どもの睡眠や食事等を含めた健康状況にも十分配慮するよう校長会とも確認しているところでございます。

現在、教育委員会並びに中学校長会では、来年度以降の運用に向けて、子どもの安全を最優先に考えつつ、集団での移動における危険等を回避する方法や自転車使用の自粛に伴う二次的な課題等について検討を進めており、保護者や地域の皆様等、さまざまな立場の方からのご意見も踏まえながら、年度内を目処に次年度の方向性を定めていきたいと考えております。

教育委員会といたしましては、今後も子どもたちの命を守ることを最優先に考え、中学

校長会と丁寧に連携を図りながら、様々な角度から課題等を検証し、部活動等に係る移動手段について、より良いあり方を検討してまいります。

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○中島地区の交通空白地についてですが、3年程前から勉強会という形で情報交換させていただいたようですが、ここ1年ほど勉強会がストップしています。今後どう進めていただけるか、見直しをお伺いしたいということが1点。

2点目は、今年の3月頃、神奈中バスより浜見平団地行きバスのダイヤの減少というお話がありました。バスの運転手不足が非常に深刻で、他に比べて1.6倍ぐらいの仕事を要されると。人手不足、あるいは、残業の増加によりやむを得ずダイヤを減少させるとのお話でしたが、ここを解決するにはどうお考えかお聞かせください。

同時に、もう一つ。昨年の意見交換会に比べ、南西部の総合的な視点での説明がすごく分かりやすかったです。ありがとうございます。そこでもう一つ伺いたいのは、ランチ2の3階の駐車場から周りを見渡すと、東側はハマミーナができ、ランチ2ができ、ハマミーナの北側には多くの入居者もおりますので、かなり進んでいるなという感じがします。一方西側、南側は、これから壊す建物が結構残っています。茅ヶ崎市の人口が急速に増加したのは、浜見平団地と鶴が台団地がほぼ同時に建設され、約4万から5万の人口増があったことが大きいと思います。現状、浜見平団地に新しく入居された方のパーセンテージと、何年後、賃貸を含めて元の人口に戻るのかを教えてください。

●勉強会を開催してから1年ほど、間が空いています。最後の勉強会以降、我々は、勉強会で合意形成をされた折り返し場の設置について、何箇所かの地権者の方と交渉をずっと続けてまいりました。最終的に今年の2月、どうしても地権者の合意が得られず、折り返し場所については白紙に戻っています。平成27年に実施したアンケートで、中島地区の方たちが、路線バスを希望しているということも理解しておりますので、路線バスを通すことを第一に優先したいと思い、今現在、新しい候補地を探している状況でございます。

ただ、それだけではなかなか先に進めないところもあります。そこで、既存のバス路線で、4路線ほど、柳島地区や浜見平、中島の方にバスが通っていますので、これらのルートを延伸、変更できないかということも含め、現在事業者と協議を進めております。

加えて、近年は様々な地域で多様な交通手段が確立されておりますので、それらの活用は出来ないか、我々も研究を重ねております。

いずれにしましても、毎年、交通問題について非常にご心配をおかけしており、お叱りのお言葉もいただいておりますが、湘南地域にとって一番いい交通を、できるだけ早く、地域の方と一緒に作り上げていきたいという気持ちは変わりません。引き続き検討を重ねて参ります。

また、ご意見にもありました、路線バスの減便についてはその通りです。以前までは、採算性の低下や、乗車人数の減少の都合で減便をするというロジックでしたが、最近は、運転手不足で走らせたくても走らせられない状態が続いています。これは茅ヶ崎市だけではなく、横浜市が一番に取り組みが始まり、既に減便が実施されております。我々としては抵抗しながら、市民の生活に影響が出ない範囲で変更や減便を行い、場合によっては、使いやすいよう変更ができないかも含め、事業者側と協議をしております。

○神奈中バスの運転手の不足もあり、中島地区の公共バス空白地の問題というのは、大変厳しい状況だと認識しています。しかし放っておくわけにもいきません。現状、高齢者が買い物に行くにも、重い荷物を持っていると、100メートル遠い場所へ行くのも大変です。妊婦さんも移動が大変厳しいという声もあります。何とかできないかと考え、今、湘南地区ではライドシェアという運用を検討し始めています。他市ではこのライドシェアを運用し、ボランティアによって交通空白地へ車の運行をしているということも聞いており、これについて勉強していこうと考えているところです。

11月には湘南地区で幾つかの先進市へ視察に行き、湘南地区でも運用できるかを検討させていただきたい。行政としても市のコミュニティバスを運行させるのは難しい状況だと思うので、検討期間の勉強を含め、窓口を決めて、一緒に検討させていただきたく思います。よろしくお願いいたします。

●これからの交通手段の一つとして、ライドシェアや自家用有償旅客運送などを含めた様々な方法を我々も一緒に勉強させていただきたいと思っております。窓口としては、都市部の都市政策課で構わないと思っております。ぜひ一緒に考えさせていただきます。

○時間を置かず、できるだけ早めに体制づくりをしていきたいと我々も思っております。よろしくお願いいたします。

●福祉部では介護保険の制度の中で、今年から「生活基盤整備事業」を始めております。その中で「地域支え合い推進員」という方を各地区に1名配置しています。具体的には社会福祉協議会の職員がそれです。湘南地区にも社会福祉協議会の職員が配置されており、今年取り組みテーマとして、外出支援を掲げています。このテーマはそれぞれの地区で課題やニーズを聞き、それに対する解決方法として掲げているものです。皆さんと意見交換しながら取り組んでいる次第です。

福祉の立場からも地域の課題を掘り起こし、外出支援を喫緊の課題として取り組んでおりますので、配置されております「地域支え合い推進員」を通じて、地域の声を吸い上げていきたいと考えております。

○南西部から駅に向かう通勤手段として、やはり自転車が便利だと思っております。そういった中で、茅ヶ崎駅を挟んで東西を分けたときの南西側の駐輪場がかなり少ないと思っております。ツインウェイの南側に駐輪場がありますが、そこは7時から22時までしか開いておらず、電車の始発から終電までの時間帯には対応できていないと思っております。この他、共恵にも駐輪場がありますが、200台規模しか駐輪できません。ツインウェイの南側の駐輪場を、北側と同じように24時間開けていただけないでしょうか。そうすることで、バスなどの手段が無く、自転車で駅に向かわなければならない方にとっての通勤手段の確保に繋がると思います。いかがでしょうか。

●今のようなご意見を頂戴し、市民の皆さんの声を把握したうえで検証を行い、北と南の開業時間を検討してまいりたいと思っております。今回は回答を持ち帰らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○私もこの公共交通問題にずっと携わらせていただきました。特に運転手さんの休憩場所や折り返し場所の用地検討のため、中島の産業道路寄り地主さん等をお願いして歩いたのですが、やはり非常に難しい。行政からも説明がありましたが、私も難しいと思っております。

そこで、運転手さんの休憩場所や折り返し場所は、次の問題とし、先に路線バスのルー

ト延伸について検討してはどうかと。例えば浜見平から国道1号を出るなど、用地取得をしなくてもいい方法があるのではないかと思います。もちろん地元も汗を流していかねばいけないと思いますが、行政と神奈中さんとで検討していただき、バスルートの延伸を最優先していただくのはどうかと私は思っております。

●冒頭でご説明をさせていただきましたが、折り返し場は地権者の方がいらっしゃいますので、非常に難しい問題ではあります。それだけに注力していると他のことが進まないのので、今、ご意見をいただいたように、既存のバス路線のルート変更、延伸ができないかも併せて、神奈川中央交通と協議しているところです。しかし、その場合ですとルートの距離が非常に長くなってしまい、使う方が不便になるという課題もあります。そういった問題も含め、事業者と協議をしながら、一番いい方法を探っております。

○中学生の部活動の自転車移動について、子どもたちの安全を考えて禁止しているとの説明がありましたが、「ちがさき自転車プラン」を推進している都市部の意見をお聞かせください。

●我々は自転車利用の促進を目指し、自転車プランを作成しています。自転車利用には、健康増進、地域経済の活性化、環境負荷の低減など、多面的なメリットがあると考えており、この自転車プランを推進しています。

しかし、プランの中でベースになる考え方は、安全・安心に自転車を利用できるような状況を作らなければならないということです。そのため、自転車プラン策定後から、関係機関や市内の関係部署と連携を図り、ルールの周知や自転車走行レーンの整備を進めて参りました。

今回の市立中学校の部活時における自転車利用の試行的実施については、私が判断する話ではないのですが、まず安全に自転車利用していただくのが大前提だと考えております。ですので、自転車利用者というより、自動車利用者にもしっかりと周知啓発をしなければならないということを我々は気付かされたと思っております。

今回の教育委員会の取り組みは、学校関係者や様々な方と今後議論がされていくと思えます。検証や結果が出てきた中で、しっかりと共有し、次の自転車利用の促進に向けた手段に繋がっていくと考えています。

私としては、今回の取り組みも前向きに捉え、議論されたことを次に活かしていくことで、本市にとって本当の意味での利用促進が図られていくと思っております。決して自転車プランに逆行することではないと捉えています。

○私の子は中学1年で、中島中学校の野球部に所属しています。子どもたちはバスで移動するようになってから、子どもたちなりに頑張っています。先輩方と話し合いながら、集合時間に間に合うように逆算して出発するようになりました。本日は試合で、松浪中学校まで行く予定でしたが、中止になりました。もし予定通り試合が行われていたら、中島からバスで駅まで出て、駅南口からまたバスに乗り換え松浪へ向かうことになっていたはずですが。乗り換えがあっても、多くの荷物を持ちながら頑張っています。しかしやはり、バスルートでなければ近いのに、遠回りをして向かわなければいけないことに対しては、不満を言いながら行っております。

我が家には少年野球をやっている弟もおりますが、その子は公園球場に行くのにも自転車が使える。でも、中学生は使えない。そこで不満もあるようで、私はその話を聞くこ

としかできない状態です。

私は、できれば、来年は自転車が使えたらいいなと思っています。中学生のみならず、高校生の自転車の運転も結構危ないと感じます。スマホをいじりながら、運転している生徒も見かけますので、中学の部活動の自転車も大事ですが、高校生に対しても指導していくことが必要ではないかと思えます。

●現在、教育委員会と中学校長会の中で話し合いを行っているところですが、現時点で確認している大きなことが3点ございます。

1点目、今年度は試行期間という形で今の運用を続けていく、ということです。

2点目、今回、自転車使用原則禁止の方針に至った経緯の中で、一番の不安、問題点は、集団で移動するときの危険性が大きいということです。今後、安全面の強化を図った上で、個人の自転車使用を可とし、引率の視点を、例えば最寄りの駅とするなども視野に入れて検討していく、ということです。

3点目は、保護者や地域の方等の声を吸い上げる必要があると考え、今年度、年内に検討会のようなものを立ち上げ、広く意見聴取をしていきたいと考えているところです。この意見聴取につきましては、自治基本条例に沿う形でヒアリングの会議を開催することを考えております。招集するメンバー構成としては、中学校長会、中学校体育連盟、部活動担当教員、まちぢから協議会、青少年育成推進協議会、PTA連絡協議会、体育協会等の代表の方にご協力いただき、ヒアリングを行っていきたいと思っております。まだ具体的な日程は決まっておりませんが、まず11月に1回目を開催して意見を集約し、その集約したものを持って、年明けに再度開催し、校長会とも意見の共有をしながら、来年4月からの運用のあり方について検討していきたいと考えているところです。

(3) 異常気象の対応について

【市からの説明】

近年、これまでの想定を超える浸水被害が全国各地で多発しております。そうした状況を踏まえ、平成27年5月に、洪水浸水による被害を軽減することを目的とした水防法が改正され、降雨量の基準が引き上げられました。河川管理者が指定する洪水浸水想定区域については、日本を降雨の特性が似ている15の地域に分け、想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域を指定するものとされました。

この水防法の改正を受け、相模川の河川管理者である国、県、また相模川流域で想定される最大規模48時間雨量567ミリの降雨による洪水浸水想定区域が平成29年3月に指定されました。それを受け、本市では平成29年12月に「茅ヶ崎市洪水土砂災害ハザードマップ」を発行し、市民の皆様方に周知をさせていただいております。

なお、想定最大規模降雨量については、これまで観測された最大の降雨量により設定されておりますが、これまでの観測記録を上回る異常気象の常態化により、浸水想定区域がハザードマップに示された範囲を超える可能性もあることから、引き続きハザードマップの重要性を認識していただき、平常時から、ご自宅等生活の中心となっている場所において想定される浸水深をご確認いただくなど、洪水への備えとしてハザードマップを活用していただきたいと考えております。

また、本市では、「逃げ遅れゼロ」の実現に向けまして、「川の氾濫によって家が流さ

れてしまうおそれがある」、「家の全居室が水没してしまうおそれがある」、「浸水継続時間が72時間以上の場所に居住している」場合のいずれかに該当する住民の方々につきましては、洪水発生前の雨が強くなる前の段階から、浸水が想定される区域外に主体的に立ち退き避難を行っていただく必要があると考えており、市民の皆様が適切なタイミングでの正しい避難行動を取っていただくため、市では迅速な情報伝達を行うとともに、平常時からの、各家庭の状況に応じた、洪水からの避難計画「マイタイムラインづくり」を進めております。また、市からの避難情報や国土交通省からの洪水情報につきましては、プッシュ型配信にて市域の皆様へ情報を確実にお伝えします。こうした取り組みを広く市民の皆様知っていただくことで、「逃げ遅れゼロ」の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

続きまして、早期避難所についてですが、原則として早期における一時的な自主避難先として開設するものであり、災害の状況により避難生活が長期化する場合または長期化するおそれがある場合は、公立小・中学校の避難所または2次避難所を開設することとなります。

現在、市役所では、小和田公民館、鶴嶺公民館、松林公民館、南湖公民館、香川公民館、小出支所、萩園ケアセンターを早期避難所としております。いずれの早期避難所についても、湘南地区からは少し距離があることから、ご意見をいただいているように、今後はハマミーナを早期避難所として指定できるよう、関係課等と調整を進めさせていただきます。関係課等との調整が終わり次第、貴まちから協議会へご報告させていただくとともに、市ホームページで広報をさせていただきます。

また、地域集会施設につきましては、現在、災害発生時の位置づけがされておりません。これは、水害時に限らず、災害発生時に地域集会施設をどのように位置づけるのか等、全市的な方向性について、今後、当該施設管理者の皆様と意見交換をさせていただきながら、検討を進めさせていただきたいと考えております。

今年度の湘南地区防災訓練におきましては、水害をテーマに企画されていると伺っております。昨年度発行させていただきました洪水ハザードマップをぜひ活用していただき、現在、市が進めておりますタイムラインづくりなどにも、地域の皆様と市と連携して減災対策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○2点ほど質問事項があります。

まず、異常気象の対応について。西日本豪雨災害で想定外の雨が降ってきました。ハザードマップで想定されるのは最大雨量が48時間で567ミリということで説明がありましたが、そのような雨が降って相模川が氾濫してしまった場合、湘南地区ではどのような洪水浸水が想定されるのか。

また、先日、台風が来ましたが、先ほど説明がありましたように、湘南地区は避難場所がありません。

ぜひ近場のハマミーナ等を利用できるよう検討していただきたいと思います。

湘南地区の防災訓練では、今年は「マイタイムライン」を勉強し、今後導入して、地域のみみなで防災訓練に取り組んでいきます。ぜひご指導をお願いします。

●皆様に配布させていただいたハザードマップは、ぜひともご家庭に帰ってご確認いただければと思います。

また、前方のスライドをご覧ください。相模川が溢水した場合、湘南地区では浸水深は大体1メートルから、色の濃い部分が下方にあります。そちらが最大5メートルになります。ハザードマップ上ですと、湘南地区では1メートルから5メートルの浸水が予測されます。

洪水で浸水が発生しますと、湘南地区におきましては、大体3日間ぐらい水が引かないと考えられます。それが相模川の最大の浸水深ということになります。

また、先ほど、早期避難場所としてハマミーナのお話でしたが、現在、関係機関や関係課と調整しておりますので、こちらについては改めて結果等をご報告させていただきます。

最後に、「マイタイムラインづくり」につきましては、積極的に進めていただきありがとうございます。本市におきましても、今、行政のタイムラインづくりをしているところです。地域や、各ご家庭でも、その状況によって避難準備行動が変わります。是非とも地域の方々と一緒にマイタイムラインづくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○今ご説明いただいたハザードマップも含め、この地域はほとんどの場所で海拔が低く、一番影響が出る地域です。特に中島地区は高いところがなく、ハマミーナまでも結構遠いです。そこで、近くに3つ大きなマンションがありますので、マンションの集会施設を使わせていただくのはどうか。行政でやっていただくのか、地域の中で協定を結んでいくのか、やり方はこれからですが、検討していきたいと思っております。

また、防災無線は地震の時には活用できますが、豪雨の時にはほとんど聞こえません。防災ラジオを活用しないと情報収集が難しく、行政として防災ラジオの活用を促進していただきたい。そこで、現在どの程度の世帯で、防災ラジオが所有されているのかをお聞かせください。

●まず、避難場所としてのマンションの活用にお答えします。一時避難等について、地域の皆様方と意見交換しながら進めていきたいと考えております。

また、防災ラジオについては、当初1万台を用意し、既に9,500台が市民の世帯に設置されている状況です。パーセント的には9~10世帯に1台設置されているような状況です。ラジオ自体は防災対策課の窓口や、店舗にも設置されております。皆様の中で防災ラジオを設置されていない方がいらっしゃいましたら、実際に見ていただき、お買い求めいただければと思います。問い合わせについては、防災対策課までご連絡をいただければ、お答えいたします。

○ハザードマップは最大でこういう浸水が起きると示していますが、雨は一度にどっと降るわけではありません。100ミリ降雨時、150ミリ降雨時、200ミリ降雨時というように、段階的なマップの作成は可能でしょうか。この前窓口伺いましたが、無いとの回答でした。しかし、そういったものが欲しいと思っております。

雨は徐々に増えていくはずですが、一度に3メートルになるわけではなく、200ミリなら1メートル程度で、それなら避難しなくても大丈夫かなとか。現在のハザードマップではそういった判断ができないと思っております。

●日ごろから地域で熱心にお取り組みいただきまして大変ありがとうございます。

浸水想定区域として示されているハザードマップですが、確かに雨というのは地震と違い、急に来るものではなく、徐々にやってきます。雨が降って川が増水し、その量によっては溢れる浸水の範囲は、河川管理者である国が策定したものを市が印刷物として配布して、住民の皆さんに危険を知らせています。これも段階的な雨量に応じたものは示されていないという状況です。

また、もう一つ、避難判断にぜひ使っていただきたいのが河川の水位です。湘南地区のエリアですと、神川橋に観測所があり、そちらで河川の水位が示されております。現地に行くのは危険ですが、市のホームページから水位の状況や、現地の内部カメラをご覧になれますので、そちらも避難判断の際の情報としてお役立ていただきたいと思います。

緊急的な場面が訪れた際は、市から緊急速報メールが皆さんの携帯電話にプッシュ型発信で避難情報として発令されます。河川管理者からも水位の情報は緊急速報メールとしてプッシュ型発信されます。これから取り組んでいただくマイタイムラインづくりにおいて、各ご家庭での判断材料にさせていただきたいと考えております。

○先ほどスポーツ公園の問題でもお尋ねしましたが、約2年後に現在の河畔スポーツ公園を国へ返し、その後シーサイドゴルフ場がゴルフのコースを変えることになれば、当然、現在の堤防を強化すべきだと思います。50年前には現在のJRの鉄橋から河畔スポーツ公園の左側の道路まで、直線を工事するという案がありましたが、消えてしまいました。その後50年経っても案がないのは、最低だとさっきも申し上げたところです。ハザードマップを作成していただいたのは結構です。しかし、県や国を動かして案を出さない限り、低い場所の土のうを積み替えただけでは、我々の命や財産は守れません。ぜひ茅ヶ崎市で案を早急に作ってほしいです。これをこの集会ですずっと言い続けているのですが、なぜ茅ヶ崎市は案が作れないのですか。

●市として独自の案を作れないのかというお話ですが、相模川は茅ヶ崎市だけの問題ではなく、寒川町や平塚市も絡んでおります。2市1町の取り組みといたしまして、各市長、町長、議長、流域の住民の皆さんなどの代表で構成する相模川の整備促進協議会での検討を進めてございます。

30年7月に発生した西日本豪雨でも甚大な被害が生じたと認識しており、前年同様、今年の7月30日に相模川の早期整備を強く求める要望活動を、市長を陣頭に、国土交通省や財務省、また、地元選出の全ての国会議員の方々に、流域住民の方々と一緒に要望活動をしてきたところです。

国の河川に関する予算は、昨今、ずっと横ばいだとも聞いています。そういう中、想定外の豪雨が国内でかなり起きており、そういった地域へ予算が多く流れ、既存計画までなかなか回ってこないという現状もございます。我々としても、協議会の中で引き続き粘り強く要望していきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

○この地域は小出川、千ノ川の海岸側になっています。ゲリラ豪雨や、相模川の氾濫という意見が出ておりますが、氾濫した後、数日経つと水は海へ流れていきます。ところが、流れない箇所があります。皆さんご存じと思いますが、千ノ川と小出川の海に流れ込んでいる北側です。我々が住んでいる柳島地区、浜見平がすっぽり入っています。上流から溢れた場合はまた別として、ここには川はないのに数日たっても水が引きません。浸水深は

1メートルから3メートルと言われていますが、海岸近くは5メートルぐらいになる想定で、その時間も3日以上から1週間だとされています。浜見平と柳島周辺に松尾川という川がありますが、これは川ではなく、排水のための誘導川になっています。万が一ポンプ場が浸水や、停電をすると、浜見平と柳島は浸水してしまいます。皆さん本当に心配してほしいです。

3日以内と言いますが、ポンプ場に事故があった場合、全く流れ出る川がない。相模川が枯れても、ここは流れ出ません。防災対策課ではどのような対応を考えているのかお聞かせください。

●浜見平の改修にあたり、鉄砲通りに雨水幹線を入れており、下水道の柳島ポンプ場へと流れるようになっていきます。最終的には38年を完了予定としておりますので、少しずつですが、良くなるとご理解ください。

●補足させていただきます。ご承知のとおり、相模川だけを整備すればいいという問題ではなく、小出川、あるいは千ノ川も同時に整備をしていかなければ水の流動が上手くいきません。相模川水系にあります小出川、千ノ川については、神奈川県による整備計画が平成27年4月に策定されており様々な事業を進めています。例えば、護岸の整備、河道の掘削、上流部での貯留施設整備などです。先ほどお話にありました、国がやるべきことは、相模川の築堤整備を一刻も早く進めていくことだと思います。こういったものを同時進行していかなければ、先ほどご指摘のとおり、水の問題というのはなかなか解決できません。国と県、市が連携をとって段階的に進めていくことで対応したいと思います。

○先ほどの質問の関連です。柳島のポンプ場の総排水量と、柳島のポンプ場の排水がオーバーする場合には、何ミリの雨が降ったらオーバーしてしまうという想定がありますか。前にも聞いたことがあると思いますが。

●申し訳ございません。担当部が来ておらず、これは正確にお答えしなければいけないので、来週中にまちぢから協議会へ回答をお届けいたします。

○集中豪雨はいつ来るか分かりません。相模川のことばかりですが、その他2つの川もあります。集中豪雨が来た場合には、下水道が満杯になって吹き出します。担当部署がないから分からないという話ではないでしょう。明日集中豪雨が来て、道路が水浸しになったとして、担当部署がないからで済む訳がない。柳島のポンプ場を改修してから何年経っていますか。それをお聞かせください。

●柳島のポンプ場は、整備後四十数年が経っております。現在、機械の入れ替えをすることで、契約を進めている状況でございます。非常にご心配をおかけしているところで、しっかりした回答ができず大変申し訳ないですが、そういう状況だということのみご報告させていただきます。

○番屋のポンプ場完成に周辺の方々が大変喜んでおります。お礼申し上げます。

1点は道路の排水の件です。現場は中島の813の先で、国道1号線の新田入口の茅ヶ崎寄り、すぐ左側に入ったお宅の東側です。先日も大雨で公道に水がたまり、通勤の女の方が裾をまくって通っておりました。ここは、雨水枦があるものの勾配が取れておらず、大雨が降ると水が溜まって困っております。

●後ほど地図上で場所を確認させていただき対応してまいります。後ほど確認させていただきます。

(第1部終了：休憩)

4. 第二部：自由質問

※○は地域、●は行政の発言

【柳島ポンプ場について】

○先ほどのテーマの関連で質問したかったのですが、この時間でもないと、コメントをお伺いします。

まず、柳島ポンプ場について。私は30年前にここへ赴任しましたが、当時、ポンプ場は1棟でした。15年ぐらい前に増設し、今2棟になっています。先日の豪雨の時は、あと50センチ位で危ないと感じましたが、それ以外は、ポンプ場があることで非常に安心して過ごすことができます。

先ほど、動力弁に絡む話題がありましたが、今は電源とディーゼルエンジンとのツーウェイで運転されていると思います。私が危惧するのは、東北の震災、あるいは福島原発などのことで、これらは電源が地下にあったのですが、このポンプ場も電源が地下にあります。ポンプ場の電気が切れたら、ディーゼルエンジンが動くようになっていると思います。電源が地下や平地にあると、福島の第一原発の二の舞になってしまうので、ポンプ場はどうなっているかをお聞かせ願います。

もう一つは防災ラジオについて。これが導入された時、私は民生委員をやっており、有り難いものが出来たと思い、真っ先に購入して設置しました。非常に重宝しております。外の放送は少しの雨でも、ほとんど聞こえません。一方防災ラジオは聞きそびれても、スイッチを押せば何回でも復唱してくれますので、非常にありがたいと思っております。

本日ご出席の市の幹部の方は、皆さんお持ちでいらっしゃるでしょうか。何か不都合を感じたことはありませんか。私が民生委員をやっている時に一番知りたかったのは、「どこにお住まいの」という部分でした。浜見平、柳島、中島にお住まいの方だったら、民生委員としてしゃかりきになって探しました。例えば小和田にお住まいだと聞くと、変な話ですが、慌てなくていいので少し安心していました。この部分が防災無線だとよく分からないです。ラジオならこれが払拭されると思ったのですが、ラジオはテープでの再生ですね。肉声ではないですね。

●機械でやっています。

○肉声ではなく、デジタルなので「ミナミコ」と読まれるなど、変な放送になっています。優秀なアナウンサーのように歯切れよく放送して下さいと苦情を申し上げたこともあります。社協の方も「どこにお住まいの」という部分が非常に関心が強いと思います。歯切れよく聞こえるように改善していただきたくお願い致します。

●防災ラジオについては、当初「南湖」を「ミナミコ」、「松林」を「マツバヤシ」と再生してしまうなど、ご指摘のとおり不具合がありました。当然ながら、地区名は大事ですので改善に取り組んできております。話し方や声の性質についても、ご意見等をいただきながら改善していきたいと考えております。

また、1点目のポンプ場については、おしかりを頂戴いたしますけれども、改めて文書にて回答させていただきます。

○地下にありますと、水浸しになって機能しないようになってしまいます。よろしくお伺いします。

●先ほどとまとめて、まちぢから協議会へ回答します。

【避難行動要支援者支援制度について】

○6月に大阪で北部地震がありました。新聞によると、要支援者名簿を使用した市町村もあれば、使用しなかった市もあるとのことでした。これに関して、本市で参考になったことがありますか。

次に、避難行動準備や避難勧告が出た場合、要支援者に伝える必要があると思いますが、誰がこれを伝え、安否確認を行い、避難させるのか。

最後に、日常から要支援者へ見守りや声かけすることが大事だと思いますが、要支援者Aさんには誰が日常的に声かけや見守りをするのか、を決める必要はあるのでしょうか。

●北部地震も含めて、今年は様々な災害があり、災害、要配慮者の早期避難、安否確認というのは非常に重要な課題であると改めて認識したところです。

名簿については、年に2回、避難関係等支援者に、具体的には自主防災組織や民生委員に配布させていただいております。名簿は活用されて初めて価値があると思っております。西日本豪雨等の災害を踏まえ、地域においてもそういった認識は高くなっている時期だと思います。名簿の活用については、各地区等に出向き、説明会等でその重要性等をお示ししておりますが、改めてこの取り組みを強化したいと考えております。

次に、誰が声かけをするかに関してですが、まずは自助だと考えています。避難行動要支援者ご自身が、情報等を収集していただくことが大切です。ご家族等も含めて、あらかじめ災害時における対策、身構え等をご自身が持っていただくということです。

その次に共助だと考えます。例えば自治会等に参加するなどで、日常から隣近所の方々の関係性を築いていただくことが重要と考えます。自助、その次には共助という形で考えていただきたいということです。

制度の周知においては、それぞれの必要性に関して広報等でもお知らせしております。地域の中で見守り活動を行っているまちぢから協議会や民生委員・児童委員の皆さんと連携しながら、制度の必要性を周知していきたいと考えております。

また、要支援者の具体的な避難に関してですが、現在、地域の避難支援関係者にお配りしている名簿には、その方の介護度やお名前のほか、ご家族の構成、普段、家にいるかどうか、避難する際にはこういった部分に気をつけてほしいなどの詳細情報を当事者から聞き取り、記載しています。その情報をもとに、個別の避難計画を作っていただきたいと考えております。先ほど、市民安全部よりマイタイムラインの話もございましたが、避難行動の詳細情報を記載した台帳と、ご自分自身で今後作っていただきたいマイタイムラインとを複合した形で、個別の避難計画をご準備いただきたく思います。これらの必要性に関しては、しっかりと今後も周知をしてまいります。

<湘南地区まちぢから協議会会長より>

先週の役員会で、まちぢから協議会が出た話題をお知らせします。

近く防災訓練があります。先ほどタイムラインの話がありましたが、近頃は異常気象も重なり、避難行動要支援者の方々について自治会ごとに様々なやり方を行っています。民生委員や自治会、自主防災会の方々、それぞれのやり方があり、多種多様なので、各自治会の担当者が集まり、やり方を検討した方がいいのではとの話になりました。皆さん方とも相談したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【小学生のランドセルについて】

○近所に柳島小学校に通っている5年生の女の子がおりまして、代わって要望です。

今、国でも問題になっていますが、小学生のランドセルが重い。これについて茅ヶ崎市ではどのような取り組みを行っていますか。また、いつ結論が出るのか、分かる範囲でお聞かせください。

皆さん、教科書が入った小学生のランドセルを持ったことはないと思います。私は実際に持って、こんなに重いのかと実感しました。ランドセルと水筒と教材と、雨の日は傘を差す。実際にこれをやると、かなり苦痛です。国でも問題になっているし、それ以前から孫とはそんな話題になっておりました。現在の市の取り組みについて、お願いします。

●先日、小学校の校長会に参加しました。そこでも話題になり、今後、教育委員会と校長会とでより良い方法を検討したいと考えております。

○実際に皆さん、学校へ行って、子どものランドセルを一回持ってみてください。そうすると答えが出やすいと思います。机の上で持っても、5キロ、10キロの感覚は生まれません。実際に持って、背負って、小さい子がこんな重い物を背負っていると思ったら、解決が早くなると思います。ぜひ早急に孫の要望を聞いてやってください。

【ポンプ場について】

○道の駅の予定地に私の畑があり、代替でポンプ場のそばに移りました。ポンプ場の外側には非常に大きな木がたくさんあります。その大きな木のため、日影になってしまい、夏は良いのですが、冬になると畑が凍って溶けません。いつまでも日が差しません。最初からそんなに大きい木ではなかったと思うのですが、ずっと切らずにいるので大きくなり、全然日が当たらないために作物が出来ず、被害を受けております。何件かそういう畑があるのですが、みんな苦勞しています。

ある人が直接市役所へ行き、木を切ってほしい、詰めてほしいと言ったそうです。取ってくれということではないです。その後どうしたと聞いたら、全然回答が来ないのでどうなっているか分からないと。そういう話を聞き、本日意見交換会があると知ったので参りました。非常に切実な問題で、実害です。実際に被害があります。もう少し真剣に考えて対処してほしいと思っています。

●申し訳ございませんでした。早急に対応します。本日は担当部が不在ですが、持ち帰り早急に対応させていただきます。そして、Mさんにご連絡を差し上げるということによってよろしいでしょうか。

○対応していただけるんですね。切るということ。

●それは現場状況を確認させていただいて。

○今までも意見は聞くものの、その後、答えが返ってこないことが多いです。

●現実的な対処をさせていただきます。

○はっきりと、切るなら切るとしてほしい。木は伸びるので、1回対応したら終わりではなく、毎年1回ぐらい継続的に対応してください。日が当たるように詰めていかないといけません。切るという回答が本当は欲しいです。自治会の班長会議でこの話が出て、今日は市の担当の方が来られるので必ず答えが出ると信じて来ました。

●私の思いとしては、すぐにも伐採したいと思いますが、現状を確認し早急に対処します。

○ 切るという解釈で良いでしょうか。

● 対処します。

○私は農家ではないので、実感がありませんが、農家の方は切実な問題だと思います。

一市民として、常時そこを通っている人間として感じるデメリットを2つ申し上げます。

まず、カラスが巣を作るのにちょうどいい高さの木になっています。そのカラスがごみ集積所を荒らして回っている。そういう観点から私も切っていただきたい。

それから、あの木が無かった頃は富士山がよく見えたのですが、背が高くなり、見えなくなったというデメリットもあります。それも念頭に入れてご検討いただきたいです。

●承知しました。

【ごみ問題について】

○市長から冒頭でも話が出ました。この間、中島自治会にも市役所の方がお見えになり、懇切な話がありましたが、話を聞いていると、有料化がまず先にあって、それからご協力をいただきたいという展開だった気がします。市議会でも議論がなされていると仄聞します。私は6割の可能性で有料化になると承知していますが、有料化にしない方が誇りある市政だと私は考えています。市議会選挙や市長選挙もあるので、あまり有料化に力を入れず、分別収集その他へ力を入れたほうがいいのでは。私も30年前に環境指導員をやっておりましたが、その当時から比べると、今の環境指導員の皆さんは非常に頑張っていて、分別などは進んでいるように見えます。是非分別収集に力を入れていただきたい。

もう一つ、私が現役の時に訪れた地域では戸別収集をしていました。昼間は交通渋滞で収集出来ないの、夜の10時、11時頃に収集しており、市の職員では対処できず、民間委託していました。現在、福祉関係で戸別収集をやっているようなので、そちらを充実させ、戸別収集はしばらく辞めていただきたいと思います。

<進行役>

市長から後で総括して頂きますので、その中でご意見をいただければと思います。

5. 市長のまとめ

総括というより、私が参加して感じたことを幾つかお話させていただきます。

まず、当地区では、相模川をはじめ河川に関するご心配が皆様方の中に非常に大きくあることを再認識いたしました。相模川は、国の管理下で、小出川、千ノ川下流部は県が管理をしております。先ほど様々な計画についてはお話をさせていただきました。国の状況についても部長からお話をさせていただきましたが、この数年、国全体での河川の整備、維持管理にかかる予算がほぼ横ばいずっと続いております。そういった中で、大規模な災害があると、復旧の予算がそこに重点化され、既に計画が位置づけられている部分は少し後にずれてしまうというのが、全国的な状況です。

相模川、特に国が管理するところは、平塚側、西側のほうは100%築堤事業を終わっておりますが、対する東側は整備がなされていないという箇所が4割近くございます。これを一日も早く対応していただきたく、国土交通省に働きかけをしております。JRよりも北側については、今後5年程度で対応していくと国は示しています。そこから下流については、計画線も引けていないというのが実態です。これについて、できるだけ早く、まずは堤防をどこに作るのかを決めていただくこと、さらに、いつまでに整備をするという

目標設定をしていただきたいということを、この数年強く要望しているところです。

先般、地元の国会議員にもお話をさせていただき、関係機関に調整をしていただいていると伺っております。今後できるだけ早く皆様方に、まずは目標の時期がいつになるのかをお伝えできる関係を作っていきたいと思っております。

小出川につきましても、県も昨年整備計画を決定して、取り組んでおります。お話にもありましたように、上流部にあたる小出地区には遊水池も確保していくとの整備計画が示されております。これにつきましても、出来るだけ早く県に対応してもらおうよう強力に要請をしております。

先ほど湘南地区まちぢから協議会会長からも話がありましたが、ハード的な整備ができるまでの間は、皆さん自身でそれぞれの命を守るためにどうすべきかを時間軸で考え、平常時に「マイタイムライン」を作っておいていただく、例えば、ご高齢の方がいらっしゃれば、当然普通の方よりも早いタイミングで逃げなければいけない、そういった配慮を皆さん自身がそれぞれご家庭の中で作っていただきたいと思っております。そして、できればそれを周囲の方とお互いに確認し合っておいていただければ、実際に一番機能すると思っております。

そうした取り組みをこれから地域の皆さんで主体的に進めていただくにあたり、市民安全部を中心に、下水道河川部も一緒になって、皆様方と対応できるようにしたいと思っております。

それから、ごみについてのお話がありました。冒頭お話しさせていただいたのは現状の課題ですが、有料化ありき、戸別収集ありきで議論はしておりません。他の地域ではこういった課題解決の方法を取っているということをお示ししながら、今は皆様からご意見をいただいております。

概ね来年の秋口には一定の方向性が整理できるよう目標設定しております。皆様の毎日の生活にかかわる部分なので、しっかり議論させていただき、市の方向性を決めてまいります。そうした場面でご発言を賜ればと思います。

湘南地区では、まちぢから協議会を中心に、様々な取り組みを進めていただいております。今後も地域の課題を地域で解決していただくのはもちろんですが、行政も一緒に連携して対応したいと思っております。今後も協議会の活動がさらに活発化していくよう思っております。 本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

6. 閉会のあいさつ（湘南地区まちぢから協議会副会長）

本日は、長い時間にわたり、熱心に意見交換をしていただきました。本日は南西部の拠点としての位置づけ、交通問題、それから災害対策について、ご議論をいただきました。たくさんの有意義なご意見をいただき、それに対して、市の皆さんも真摯にお答えをいただきました。皆さんも感じられたと思いますが、この地区の課題は一朝一夕で解決できるものではない、難しい問題もたくさんございます。それを解決していくには、地域の皆さんと行政の皆さんが協力し、対応していく必要があると思っております。市の皆さんには、そのような姿勢で今後我々と協力体制を作っていただきたいと思っております。

本日は、市の皆さん、そして地域の皆さん、お忙しいところをご出席いただき、本当にありがとうございました。これをもちまして、湘南地区の意見交換会を閉会とさせていただきます。

以上